



わたしたちの 大網白里市

【P23～24 解説シート】⑥

むかしの市のようにすをつたえるものに、どのようなものがあるのかな？

元禄津波(げんろくつなみ)の碑(ひ)

1703年11月23日に大きな地しんがあり、それにともなっておきた大津波(おおつなみ)によって63人の人がなくなりました。その人たちの供養(くよう)のため北今泉(きたいまいずみ)の等覚寺(とうかくじ)にたてられた碑(ひ)です。津波のおそろしさを今につたえています。

出典：大網白里市教育委員会「わたしたちの大網白里市」平成29年



青い文字をクリックすると該当ページにリンクしています。

【博物館】⇒【大網白里市の文化財】⇒[【元禄津波の碑】](#)

【資料室】⇒【大網白里町史】⇒[【江戸時代の災害】](#)

【歴史学習のポイント】

地震や津波の恐ろしさを後世に伝える石造物は、日本各地で残されています。この碑は津波で亡くなった方を供養するためのものです。人類の歴史に災害はつきものです。後世に残すべき大切な文化財です。